

御国の称賛をうける者！！ 陶器師の手にゆだねよ 「1. この世の富 小さいことに忠実」ルカ16：1-13

■ レオナルド・ダ・ヴィンチの最後の晚餐

とても有名な絵ですが、よく見ると不自然な箇所があります。もともとの絵には、イエス様の足が描かれていました。足を組んだ姿はイエス様が十字架にかかる姿を表していたと言われていたのですが、現在の絵には扉のようなものが描かれています。他の画家が自分の解釈で絵を修正してしまったため、最初の姿から変えられてしまっていたのです。1900年代の後半に一人の女性画家が原型に戻そうとしましたが、扉の部分だけは直すことが出来ませんでした。絵に描かれた人物には、その人を象徴するアトリビュートも一緒に描かれています（ユダはお金の袋、ペテロは剣など）。これは、私達が持っている弱さを表しています。あなたがこの絵に居るとしたら、どんな風に描かれるでしょうか。この絵画のように素晴らしい価値があるのに、それが損なわれてしまっていないでしょうか。

私達には進むことを諦め、投げ出してしまいたい心があります。神様は私達に与えられた素晴らしい回復のために、その人が持つ弱さを取り去りたいと願っておられます。

また、聖書には最後まで忠実であれと書かれています。誰もが何かを成せるわけではなく、多くの人が途中で諦めてしまいます。けれど、私達は忠実であれというその狭い門への道を選んでいかなければなりません。

■ 忠実であること

忠実であるとはどういうことでしょうか。ある動画に、イギリスのロイヤルガードをしている兄のもとへ妹が会いに行くというものがあります。ロイヤルガードはその場所を動かず守り、姿勢や表所も崩してはいけない仕事です。妹が会いに来た時、話すことも笑いかけることも出来ませんでした。手を握られた時にそっと握り返すことで妹の想いに応えました。彼は職務を全うしつつ、自分に出来る最大限の方法で妹に愛を伝えたのです。忠実であるとは、このような姿ではないでしょうか。

神様は私達にたくさんの喜びと感謝、そして一人一人に役割を与えて下さっています。自分に任されたことを成し遂げる忠実さについて考えてみましょう。

■ 金持ちと一人の管理人

イエス様は弟子たちに、金持ちとその人に仕える管理人のたとえ話をされます。ある時、この管理人が主人のお金を乱費（横領）しているという噂が流れます。

『主人は、彼を呼んで言った。おまえについてこんなことを聞いたが、何ということをしてくれたのだ。もう管理を任せておくことはできないから、会計の報告を出しなさい。』（16：2）

このたとえ話では、主人はこの管理人に時間の猶予を与えます。すぐに仕事を辞めさせるのではなく、報告書を出しなさいと言ったのです。悪いことをした管理人に時間の猶予を与えろといった不思議な前提があった上で、このお話は進んでいきます。

仕事を上げられると思った管理人は、ある方法を思いつきます。それは、主人の債務者たちを呼んで、油や小麦などの納める量を減らしてあげることでした。彼は債務者たちに「私の主人に、いくら借りがありますか。」と尋ねます。

『その人は、『油百バテ。』と言った。すると彼は、『さあ、あなたの証文だ。すぐにすわって五十と書きなさい。』と言った。』（16：6）

バテという言葉は女性を表しており、1バテは女性が一度に運ぶことのできる量を示しています（1バテ…約32リットル）。油百バテ（3200リットル）は4トンのタンクローリーで運ぶくらいの量で、現在の価格で1000万円（想定）ほどになります。

この管理人は抜け目なく考えて、仕事をクビになった時に自分が減らしてあげた500万円分（想定）の恩恵を彼らから受けられるようにしました。また、彼は証文に自分で減らした量を書かずに、債務者たちに書かせます。納める油や小麦の量が違ってたと主人が気付いた時に自分が責められないようにするためでした。

『この世の子らは、自分たちの世のことについては、光の子よりも抜けめがないものなので、主人は、不正な管理人がこうも抜けめなくやったのをほめた。』（16：8）

悪いことをした管理人を、なぜ主人はほめたのでしょうか。あなたはこのたとえ話からどんなことを感じますか？これまで群衆に話していたイエス様は弟子たちに、この管理人は主人の財産を乱費していると言いました。主人は神様を表しているとして、乱費している管理人は誰を示していたのでしょうか。私達も考えてみましょう。

■ 小さい事に忠実

『小さい事に忠実な人は、大きい事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です。ですから、あなたがたが不正の富に忠実でなかったら、だれがあなたがたに、まことの富を任せるでしょう。』（16：10～11）

たとえ話を通して、小さい事に忠実な人について伝えられています。不正の富を行った人が忠実な人として書かれたのはなぜでしょうか。難解なたとえ話ですが、意味が分からないからと読み飛ばしてしまえばそれまでです。繰り返し読む中で、意味が浮かび上がってくるかもしれません。まず、考えてみるのが大切なのです。

私達は神様からこの世の富を任されています。そして、この世の富とは不正の富のことだと聖書では言われています。例えば、100円の物が100円で売られていない時点で、そこには不正があります。人件費や輸送費、法律によっても価値は変わってくるでしょう。ここでいう不正とは、悪事のことではなく義（正義）でないという意味です。この管理人は主人のお金を乱費していたと言われていました。私達は神様から任せられたものをどうするべきでしょうか。

■ 一人の宣教師の話

ある一人の宣教師がアフリカに行き、何十年もかけて命がけて宣教をしました。何度も伝染病に罹り、殺されそうになる危機も乗り越えて忠実に働きました。そして、母国のアメリカに帰ることになり、そのことを手紙で知らせます。帰ってみると、船が着く港にはたくさんの人が待っていました。彼は、こんなに多くの人が出迎えてくれるのかと喜びましたが、彼らが待っていたのは同じ船に乗っていた一人のスターでした。彼はがっかりしたものの、自分を待っていてくれるはずの宣教師団や送り出してくれた人々を探しました。けれど、とうとう誰も見つかりませんでした。彼は、誰も出迎えてくれなかったことに落胆します。

そんな時、「あなたが蒔いた種は天に蒔かれたもので、あなたを待つものは天であなたを待っている」という言葉が示されます。彼はその言葉によって宣教の日々を思い出し、自分がしてきたことは人から称賛を受けるためにしたものではなかったことに気付きました。聖書には、任されたものを友のために用いなさい、そうすれば友があなたを迎えてくれますと書かれています。

さいごに

私達は聖書の言葉から何を学ぶべきでしょうか。たくさんのメッセージが聖書には出てきますが、私達はそれを正しく理解しようとしているでしょうか。神様は、たとえ話の管理人のように私達に考えるチャンスを与えられています。

そのため、「あなたは乱費している。だから考えなさい。そして、どう使ったのかを書きなさい。」と言われたのです。

私達は任されたものをどう使ったのか、この世の富を任されるというのがどういうことなのかを、もう一度考えてみなければなりません。

神様が伝えたいことは一つですが、人によって受け取れる時や受け取り方は異なります。まず、神様に聞くことから始めましょう。そして、聞いたことをどうすべきか祈ってみましょう。

（要約者：池田 優香）

（2024年1月14日）